

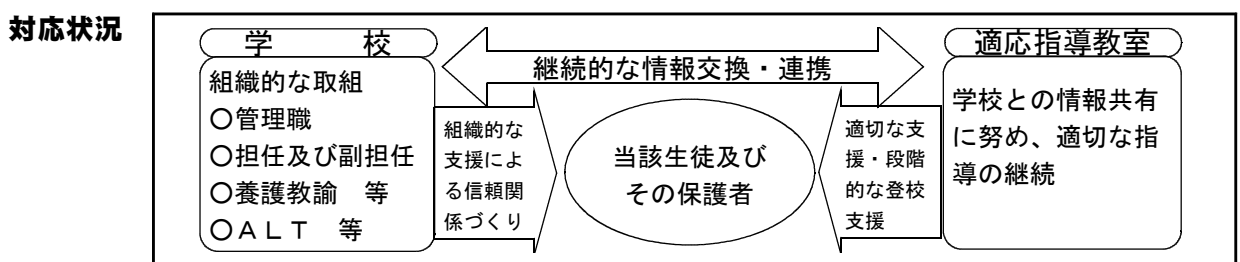
## 不登校児童生徒への対応事例1（中学校第3学年男子）

### ～学校と適応指導教室の連携～

#### 問題の把握

当該生徒は、関係生徒から、冷やかしやからかいなどを受けたことをきっかけに、第2学年から不登校となり、その年の11月から適応指導教室に通級している。関係生徒は多動の傾向が見られ、当該生徒のみならず、他の級友に対しての悪口や暴言が多い。当該生徒は、言われたことを何でも額面通りに受け止めてしまう傾向があることも要因と考えられる。

#### 対応状況



担任及び副担任による継続的なかわり

〈家庭環境〉

- 当該生徒と父、母、姉の4人家族である。父母ともに几帳面であり、当該生徒の家庭での様子や不登校の経緯等について書面にまとめ、学校に相談に訪れた。

管理職及び多くの教職員等による組織的なかわり

〈適応指導教室への通級の経緯〉

- 担任が当該生徒及びその保護者と登校に向けた話合いを重ね、そのステップとして、担任が適応指導教室への通級を進め、第2学年の11月から通級している。

学校行事等をきっかけとした継続的な登校支援

〈学校の対応の状況〉

- 担任及び副担任による定期的な家庭訪問及び適応指導教室への訪問を継続し、当該生徒との信頼関係づくりや保護者との協力体制の構築に努めた。
- 管理職や担任及び副担任以外の教諭も積極的に適応指導教室を訪問して当該生徒への声かけを行い、信頼関係づくりに努めた。
- 当該生徒が5月に放課後に登校をした際、ALTが積極的にかかわりを持ち、ALTとの触れ合いの楽しさが刺激となって一時期登校が可能になり、修学旅行に参加することができた。
- 夏季休業中の登校を積極的に呼びかけた結果、7日間登校することができ、美術等の実技実習を中心に課題に意欲的に取り組んだ。

進路を見据えた組織的な対応

〈適応指導教室の対応の状況〉

- 学校との連絡を密にし、特に学校行事等の取組については詳しく情報収集を行い、当該生徒に情報提供するとともに、可能な範囲で登校を促した。
- 文教テストを適応指導教室で実施し、その採点は学校が行うなど、当該生徒の進路を見据えた取組について学校と連携を図った。

別室での登校の実現

〈当該生徒の現在の様子〉

- 10月末の教育相談及び12月の三者面談に参加し、進学に向けた話合いを行い、進学希望先の高校に事前に教育相談を受けることなどを確認した。その結果、高校生活を見据えて、別室登校できるようになった。

#### 不登校の問題を速やかに解消するためのポイント

- ・学校と適応指導教室との連携を密にすること。
- ・可能な限り、多くの教師等が当該生徒へのかわりをもつこと。
- ・学校として組織的かつ継続的に対応すること。